

# NIE（教育に新聞を）で町づくり ～高校生のサービス・ラーニング～

山田 明  
(福岡 自由ヶ丘高等学校)

## 【要旨】

町づくりには、住民が地域活性化の視点で責任ある市民として主体的に参加することが望まれる。これからの時代に生きる高校生にその担い手となってもらいたい。高校生の主体的な社会参加には責任ある市民となるための学びが必要である。市民としての資質及び能力、いわゆる市民性（シティズンシップ）を涵養することが求められる。その教育方法にNIE（教育に新聞を）とサービス・ラーニングがある。高校生発！地域活性化新聞プロジェクトは、2005年から2012年の8年間にわたり、高校生が福岡県北九州市での社会貢献活動に責任ある市民として町づくりに参加し地域住民と一緒に活動したものである。NIEとサービス・ラーニングという共に米国生まれの教育手法が協働した先駆的な取り組みである。

## 1. 高校生に身につけさせたい資質としての市民性

現代の高校生に身につけさせたい資質・能力とは何か。報告者は、主体的な社会参加に資する力、いわゆる市民性（シティズンシップ、以下省略）と捉え、社会貢献活動を通して学ぶ実践に取り組んでいる。この市民性の涵養に関わる具体的な資質項目について、次のように整理する（[表1]）。

表1 高校生に身につけさせたい資質としての市民性<sup>1)</sup>

＜市民性の定義＞		
基本的リテラシーを基盤にした広義の学力を有し、市民社会で主体的に生きること、生き抜くことができる資質及び能力をいう。		
市民性の大項目	具体的資質項目	4観点教育評価
(1) 自己理解	理解力、判断力、表現力、発信力、	関心・意欲・態度
(2) 他者理解	課題発見・解決能力、批判的思考力、	思考・判断
(3) コミュニケーション能力	人間関係能力、道徳性、倫理観、	技能・表現
(4) サービス/ボランティア	自発性 等	知識・理解

現代の高校生は、概して人と交わる経験が不足しており、他者と協働することが必要とされる社会において課題がある。他者理解が困難になれば、学校や地域社会で生きていくことや自己の確立も困難になる。この他者理解のために、自己理解・サービスの精神・人間関係を創造するコミュニケーション能力の涵養が必要である。また市民性とは、自己肯定感を伴った積極的な資質・能力のことである。今回の活動は、高校生が身近な地域社会における町づくりという社会貢献を通して、自己肯定感を高めた活動である。

## 2. NIE（教育に新聞を）・SL（サービス・ラーニング）で町づくり

報告者は、これまで高校生の自己形成に有効な学びを学校教育と地域社会を結ぶ社会貢献活動という視点で模索してきた。その基盤となった組織が、NPO サービス・ラーニング・フォーラム（SLF、以下NPO（SLF）とする）である。NPO（SLF）は、福岡県内の高校生を対象に社会貢献型のプロジェクトを支援してきた。この取り組みは、サービス・ラーニングという教育手法に基づくものである。サービス・ラーニングの起源は、1966年から1967年にかけて米国 TVA（テネシー河開発公社）が提供した大学との産学共同プロジェクトから始まったとされる<sup>2)</sup>。主体的な社会参加の資質及び能力という市民性の涵養を目指し、教室の知と社会実践を結びつける戦略的な教育方法である。また、学校で学んだ知識を地域社会に還元する活動を通して知識や技術の不足を学校での学びで補いさらに成長しようとするものであり、現代的な課題である青少年の学ぶ意欲や主体性の確立などへの処方箋として有効である。「高校生発！地域活性化新聞プロジェクト」（以下、「高校生新聞」とする）は、NPO（SLF）が提供するプロジェクトの一つで、生徒が地域活性化のニーズに対して学校で学んでいる国語や社会などの教科学習を活用して町づくりへの貢献をするというサービス・ラーニングである。「高校生新聞」は、NPO（SLF）が主催する学校外の活動で、福岡県北九州市内の高校生を対象に募集し、週末や長期休業中を活用して北九州市各区の地域活性化に資する新聞を各1回作成・発行した。『きちやり～新聞』（八幡東区）、『若松今昔新聞』（若松区）、『門司新聞』（門司区）、『とばた新聞』（戸畑区）と多数の高校生が地域社会の課題解決に貢献してきた。高校生という若い世代が地域社会の課題に取り組み、そこに住む人々とのコミュニケーションを通して感じ取ったニーズや思いを柔軟な視点で記事にした。その活動が地域社会の人々に町づくりのきっかけや活力を与えた。

また「高校生新聞」は、NIE（教育に新聞を）という教育手法でもある。NIEは1930年代のアメリカが起源とされ、社会性を身につけた青少年の育成を目指してきた。新聞を活用し、読む・聞く・書くという創造的な活動を通して知的好奇心や興味・関心を持ち、教科学習へフィードバックすることで各教科の知識が生きたものになる。NIEは、課題発見能力・課題解決能力・情報リテラシー（情報収集力、情報批判力、情報活用力）・思考力・判断力・表現力などの習得に効果的である。新聞づくりで町づくりを体験した高校生は、社会貢献で自己肯定感を高揚させ身近な地域社会に接して社会認識を高めるなど市民性を涵養した。

## 3. 「高校生新聞」

NPO（SLF）が2005年から2012年にかけて北九州市で実施してきた高校生の社会貢献学習は、高齢化がすすむ商店街の活性化に貢献するため、市民に商店街の魅力を伝えることを目的として町づくり新聞を作成したものである（[表2]）。高校生が若い感性で掘り起こした話題豊富な新聞が商店街に活気をもたらすことを意図したサービス・ラーニングであった。サービス・ラーニングが効果的に成立するには、次の4つの構成要件<sup>3)</sup>が必要とされる。第1は、事前準備(Preparation)である。サービス・ラーニングとしての実践的学びを経験する前に行われる技術の習得・研修・パートナーシップの開発等がこれに含まれる。第2は、行動(Action)である。参加者が地域社会のために有意義なサービス活動を実践することである。第3は、振り返り(Reflection)である。活動を通し経験を深めながら次の学びにつなげていくことである。第4は、祝福(Celebration)である。参加者が、

友人・学校関係者・地域社会の人々に対して活動の成果（地域社会への貢献）を示し、新たなニーズを明らかにしていくことである。以上のプロセスを経た「高校生新聞」の活動について、その概要と学習効果を報告する。

表2 「高校生新聞」(福岡県北九州市)

地域活性化新聞	地 区	参加高校*「高校」は省略	活 動	参加人数	発行部数
きちやり～新聞	八幡東区	自由ヶ丘／若松	2005/7～8	10名	2,000部
若松今昔新聞	若松区	自由ヶ丘／若松	2005/11～06/1	10名	4,000部
門司新聞	門司区	自由ヶ丘／大翔館／敬愛	2008/7～10	10名	3,000部
とばた新聞	戸畑区	自由ヶ丘	2012/3～6	12名	3,000部

(1) 「高校生新聞」の概要

2005年に実施した『きちやり～新聞』<sup>4)</sup>(北九州市八幡東区)を事例に概要を紹介する。祇園町商店街を紹介する町づくり新聞を作成する活動であった。主催はNPO(SLF)で、北九州市内の高校に呼びかけ参加者を募集した。商店街の住民との交流、新聞の取材、作成、配布による町づくりという地域社会への貢献を通して主体的な社会参加を経験すること、参加者が自ら課題を発見し解決していくプロセスから技能を高めることを目的とした活動であった。活動は長期休業中を活用し、事前準備としてNPO(SLF)のスタッフや新聞記者が講師となり、調査方法(公民科・情報科)・文章表現(国語科)など活動に関連する学習を実施した後、新聞作成の活動に入った。夏期休業を利用した約1カ月間の活動であったが、後続の「高校生新聞」は、事前準備と活動中の振り返りを充実させ、3カ月～4カ月をかけた取り組みに発展していく。なお『きちやり～新聞』の活動概要については、この社会貢献活動とサービス・ラーニングの構成要件([表3])、スケジュール([表4])、教科学習とサービス活動の関連([表5])を参照のこと。

表3 『きちやり～新聞』とサービス・ラーニングの構成要件

サービス・ラーニングの構成要件	『きちやり～新聞』との関連事項
関係する教科	国語科、情報科、商業科、福祉科 等
地域社会のニーズ	商店街の魅力を市民に伝え町を活性化する
地域社会の資源	商店街、商店街の人々、郷土史家、ケーブル＝テレビ
事前準備(Preparation)	文章表現、取材方法、パソコン
活動(Action)	新聞の取材、作成、配布
振り返り(Reflection)	総括用の振り返りシートの完成
祝福(Celebration)	商店街の人々との交流、プレゼンテーション、表彰

表4 スケジュール

月 日	項 目	内 容
7/24	オリエンテーション 学習会①	活動の概要説明、事前アンケート 調査・取材、写真撮影、レイアウト等新聞の基礎知識

月 日	項 目	内 容
7/27	編集会議① 学習会② 商店街調査	編集方針、記事分担 取材の実務 事前調査（下調べ）、取材（7/27～8/6）
7/30	学習会③	文章表現、パソコン操作
8/ 6	記事の作成	新聞記者による原稿指導
8/ 7	原稿の完成	商店街の取材（確認作業）と完成原稿の作成
8/11	編集会議②	原稿チェック及び読み合わせ
8/18	新聞完成	最終レイアウト
8/20	発行	新聞配布、振り返りシートの完成、事後アンケート
8/27	振り返り・祝福	高校生・商店街の人々・スタッフによる会合、プレゼンテーション、修了書、ケーブルテレビの取材

表5 教科学習とサービス活動（「高校生新聞」）の関連／学習指導要領と新聞作成

総則・教科	高等学校 学習指導要領（2009年告示）	新聞作成との関連
総則 第1款 教育課程 編成の 一般方針	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達段階を考慮して、生徒の言語活動を充実する。	地域活性化新聞の作成
国語 第1款 目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	取材 インタビュー 原稿作成、原稿校正
情報 第1款 目標	情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、情報社会の諸課題を主体的、合理的にかつ倫理観をもって解決し、情報産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。	インタビュー パソコン（紙面作成） 情報リテラシーの実践
商業 第1款 目標	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、（中略）、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。	取材 インタビュー（商店街） 調査 原稿作成
福祉 第1款 目標	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。	地域活性化新聞の作成 サービス・ラーニング

## (2) 学習効果

「高校生新聞」における共通の評価項目及び多様な観点から見た評価項目に関し、学習効果の全体像を把握した（〔表 6〕）。共通の評価項目については、地域社会への認識の変化や地域貢献の在り方が意識づけられたか、高校生が活動を通して資質・能力の涵養に手ごたえを感じたかである。これらの評価項目については、相対的に学習効果が認められた<sup>5)</sup>。本報告では「高校生新聞」で実施した多様な観点からの評価を整理する。『きちゃり～新聞』ではスタッフによる自己肯定感や主体的な社会参加等に関する参与観察、『若松今昔新聞』では高校生の自由記述における学びの変容、『門司新聞』ではスタッフによる 4 観点評価、『とばた新聞』では高校生の自己評価にみるキャリア評価（人間関係形成，社会形成，課題解決、キャリア形成能力）である。

表 6 「高校生新聞」における評価項目一覧表

評価項目	きちゃり～ 新聞	若松今昔新聞	門司新聞	とばた新聞
地域社会の認識／貢献	○	○	○	○
資質・能力の向上	○	○	○	○
自己肯定感	○			
主体的社会参加	○			
プロジェクト評価	○			
学びの変容／継続		○		
4 観 点	関心・意欲・態度		○	
	思考・判断		○	
	技能・表現		○	
	知識・理解		○	
困難体験				○
キ ャ リ ア	人間関係形成能力			○
	社会形成能力			○
	課題解決能力			○
	キャリア形成能力			○

### 1) 『きちゃり～新聞』

高校生の自己肯定感及び主体的社会参加等に関するスタッフの参与観察は、以下の通り。

#### ①話題探し／自己肯定感

時代から取り残された商店街の過去・現在・未来を見つめる高校生の感性や視点が大人では提供することができない話題を発掘した。これには、新聞記者も驚く内容があった。そのことを賞賛された高校生はさらに自信を深めた。

#### ②取材／主体的社会参加

編集会議後、一斉に商店街に繰り出し取材に入った。記事にしたい内容の情報が見つからず試行錯誤が続く。どこに行けば、どこを探せば自分の知りたいことに行き当たる

のかという課題を高校生は克服した。インターネットを活用すればすぐ解決すると考えたが、あまりに地域的な内容は必ずしも得られないことに気づく。次に商店街を隅々まで取材すること、つまり足で稼ぐという手法をとるが徒労に終わる。高齢者に的を絞る取材もした。高齢者は地域の過去をよく知っていると考えたからだ。ある高齢者は、この商店街に古くからある神社に相談してみようという助言を与えてくれた。高校生はその神社を訪ね知りたかった情報を得るという体験をする。取材を通して、情報の所在を考える資質（情報リテラシー）の涵養にも学習効果があった。

### ③記事作成／学びの深化

多くの高校生が新聞社やケーブル＝テレビなどの専門性をもったスタッフと活動を共にすることで、それらの仕事に興味・関心を抱いた。高校生は、専門家がそれぞれの専門性を身につけるために苦労した話を聞き、一つのことを極めることの難しさを理解した。このことは進路選択の学びにもなった。また高校生は、実際に新聞を作成するにあたり国語（文章表現）など学校での学びが大切なことに気づいた。

### 2) 『若松今昔新聞』

「今回の活動中、あなた自信の課題を解決するために、どのような方法とり、どのような工夫をしましたか。その結果はどうでしたか。」という質問項目に関する高校生の自己評価＜自由記述＞である。

- ①自分が伝えたいことを客観的な立場で検討し、多様な意見を持った人々を対象に記事を書いた。他の高校生記者と議論して記事をまとめた。
  - ②初めて取材に行った店で取材目的などがうまく伝えられず断られた。そこで、もう一度取材の準備をやり直し、訪問した次の店で親切に対応してもらえた。
  - ③テレビの取材で緊張して自分の意見を整理して表現できなかった。何とかつまずきながらも話すことができた。表現力の重要性がわかった。
  - ④原稿をわかりやすく簡潔にまとめることに苦労した。新聞記者の指導を受け、完成することができた。
  - ⑤初対面の人との会話に困難さを感じた。打ち解けるための工夫をすること、話し相手を敬う気持ちを持つことを通じコミュニケーションの成立に努力した。
- 以上の高校生のコメントから、対人関係形成・文章の技術などに学びの変容がみられた。

### 3) 『門司新聞』

4 観点（関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解）における指導者評価を実施した。高校生の活動を通し、「高校生新聞」が彼ら（彼女ら）にとって効果的な学習内容であったかという視点でNPO（SLF）のスタッフが評価したものである（〔表7〕）。評価項目について、全体として成果が認められるが、相対的に学習効果が表れにくかった質問項目は、自信を持って社会貢献できる技能、授業で学んだ内容を深く理解したかということであった。ともに短期間では効果が表れにくい項目である。活動提供者（主催者）による活動の質を上げる取り組みと高校生が後続の「高校生新聞」に継続して参加するように奨励することが望まれる。

表 7 指導者評価／1. 全然該当しない 2. あまり該当しない 3. 該当する 4. 良く該当する 5. 大変良く該当する

4 観点評価と評価基準	質問項目	指導者評価 (5段階)		
		A・Y	M・M	AVE.
<b>関心・意欲・態度</b> 自己の生き方を踏まえ問題解決や探求活動に主体的及び創造的に取り組む態度	1. 活動中、主体的な活動ができたか	3.8	3.8	3.8
	2. 活動中、集団での基本的ルールが順守できたか	3.6	4.0	3.8
	3. 活動中、創意工夫ができたか	3.5	4.0	3.8
	4. 活動を通して自信が獲得できたか	3.9	4.2	4.1
	5. 活動で満足感を得たか	4.0	4.1	4.1
<b>思考・判断</b> 主体的思考・判断	問題解決のプロセスを習得できたか	3.9	3.9	3.9
<b>技能・表現</b> 課題解決能力	自信を持って社会貢献ができる技能を身につけたか	3.8	3.6	3.7
<b>知識・理解</b> リテラシーの涵養 学力の基礎・基本の習得 教科学習の充実	1. 教科学習と地域社会のニーズの関連を認識したか	3.7	3.8	3.8
	2. 授業で学んだ内容を深く理解したか	3.6	3.7	3.7
	3. 活動と課題の関連を理解したか	3.7	3.8	3.8
	4. 学びについて振り返る機会を得たか	3.7	4.0	3.9
	5. 学習態度が改善されたか	3.8	4.4	4.1
	6. 新しい技術・関心・知識を習得したか	3.7	4.0	3.9
	7. 地域社会の課題に関する原因を理解したか	3.6	4.0	3.8
AVE.		3.7	4.0	3.9

#### 4) 『とばた新聞』

キャリア評価に関する高校生の自己評価である ([表 8])。顕著な効果を見いだせた質問項目として、目標達成のための工夫、分析力、見通す力、情報収集能力がある。

表 8-① 効果的な活動の工夫

質問項目	選択肢	事前	事後
私は、目標を達成するための効果的活動を工夫することができる。	全然該当しない	3.8%	0.0%
	あまり該当しない	38.5%	9.2%
	該当する	38.5%	34.6%
	良く該当する	7.7%	38.5%
	大変良く該当する	11.5%	17.7%
	無回答	0.0%	0.0%

表 8-② 分析的行動

質問項目	選択肢	事前	事後
私は、行動の結果を理解し、分析する能力がある。	全然該当しない	3.9%	0.0%
	あまり該当しない	36.9%	3.1%
	該当する	28.5%	44.6%
	良く該当する	19.2%	34.6%
	大変良く該当する	11.5%	17.7%
	無回答	0.0%	0.0%

表 8-③ 将来への見通し（希望）

質問項目	選択肢	事前	事後
私は、自分の将来の夢や希望に向かって努力しようとする。	全然該当しない	0.0%	0.0%
	あまり該当しない	11.6%	0.0%
	該当する	42.3%	38.5%
	良く該当する	19.2%	34.6%
	大変良く該当する	26.9%	26.9%
	無回答	0.0%	0.0%

表 8-④ 情報収集能力

質問項目	選択肢	事前	事後
私は、自分が知りたい情報を様々な方法（文献・IT・アンケート・インタビュー・実地調査等）で調べ正確な情報の収集ができる。	全然該当しない	3.9%	1.8%
	あまり該当しない	50.0%	24.6%
	該当する	34.6%	32.8%
	良く該当する	7.7%	33.1%
	大変良く該当する	3.8%	7.7%
	無回答	0.0%	0.0%

#### 4. おわりに

本報告は、現代の高校生に求められる資質・能力を市民性とし、その学びをNIE（教育に新聞を）とサービス・ラーニングという教育手法に求め、町づくりへの社会貢献として実践したものである。この取り組みを通じ、高校生の活動は一定の学習効果を得たと認められる<sup>6)</sup>が、さらなる有効な活動とするため次の2点を改善点とする。

- (1) 学校での学びと社会貢献活動の関連、いわゆる教科のカリキュラムが地域社会のニーズと密接であったか、課題解決学習として十分に効果的であったかという活動の質の充実である。サービス・ラーニングは、児童・生徒・学生が学校で学ぶ学習内容を活用して地域社会のニーズへ応え、その体験を通して自己肯定感や学びを深化するところにある。活動の質が学習効果に大きな影響をあたえるのである。
- (2) 「高校生新聞」は、学習活動であり活動の目的に沿った学習効果が期待される。学習効果は評価となって明らかにされるが、この評価に工夫がなされたのかという課題である。評価は「高校生新聞」の一般化にむけても重要であり、例えば学校教育及び社会教育における市民性涵養のプログラミングや普及にも関わることになる。

「高校生新聞」のようなサービス・ラーニングにかかわる活動には、学校プロジェクト（学校が中心となる企画、例えば、総合的な学習の時間や学校設定教科などカリキュラム化<sup>7)</sup>が可能である。）と地域社会プロジェクト（NPOや行政等が中心となる企画）がある。NPO（SLF）の活動は後者に属するが、上記に示した「高校生新聞」の改善点を克服し、現代の高校生に求められる市民性の体得に資する有効な学習機会を継続的に提供していきたい。

- 1) 拙稿『高校生に身につけさせたい資質としての市民性』九州教育学会研究紀要第 32 巻、2005、p145 をもとに報告者が作成した。
- 2) 拙稿『サービス・ラーニング研究』学術出版会、2008、p88
- 3) 拙稿『サービス・ラーニング研究』学術出版会、2008、pp70-71  
拙稿『現代日本の高校教育改革におけるサービス・ラーニングの研究』博士論文構想発表会資料（九州大学）2006、pp12-13
- 4) きちやり〜新聞は、第 1 回わがまち新聞コンクール（日本新聞教育文化財団主催、2005 年）において、高等学校部門の佳作（34 都道府県 2329 点出品）を受賞した。
- 5) 拙稿『NIE で町づくり』SLF、2013、pp50 - 54、pp63 - 65、pp75-76、pp82-104
- 6) 拙稿『NIE で町づくり』日本生涯教育学会第 35 回大会研究発表レジュメ、2014、pp25-36
- 7) 拙稿『高校生のサービス・ラーニングにおける制度的枠組みの構築』九州大学大学院教育学コース飛梅論集第 6 号、2006、pp143-163